

トピックス

●三硫化アンチモン原料合成設備の生産能力増強

中瀬製錬所では金属硫化物を製造するSULMICS工場を2018年に立ち上げております。2022年10月には同工場内の三硫化アンチモン原料合成設備の生産能力を増強いたしました。三硫化アンチモン原料の主要原産国である中国からの調達が困難となったことから、増強により三硫化アンチモン製品の安定供給を行います。

同製品は自動車のブレーキパッドの摩擦調整材として広く用いられており、今後も継続的な需要が見込まれることから生産体制の強化を図ってまいります。



中瀬製錬所 SULMICS工場

●つくば工場の増築・増産についての進捗状況

子会社の日本アトマイズ加工株式会社つくば工場（茨城県牛久市）では、メタル系パワーインダクタ向け鉄系合金粉の生産能力増強に向けた建屋の増築工事が順調に進んでおります。

10月に入り、ほぼ5割の進捗状況となっております。2024年1月の増築棟竣工、同年4月の増産設備稼働開始を目指し、工事を推進いたします。

生産能力増強により、エレクトロニクス化が進む自動車分野や5Gスマートフォンを中心に高機能が求められる通信機器分野などでの需要増加に対応してまいります。



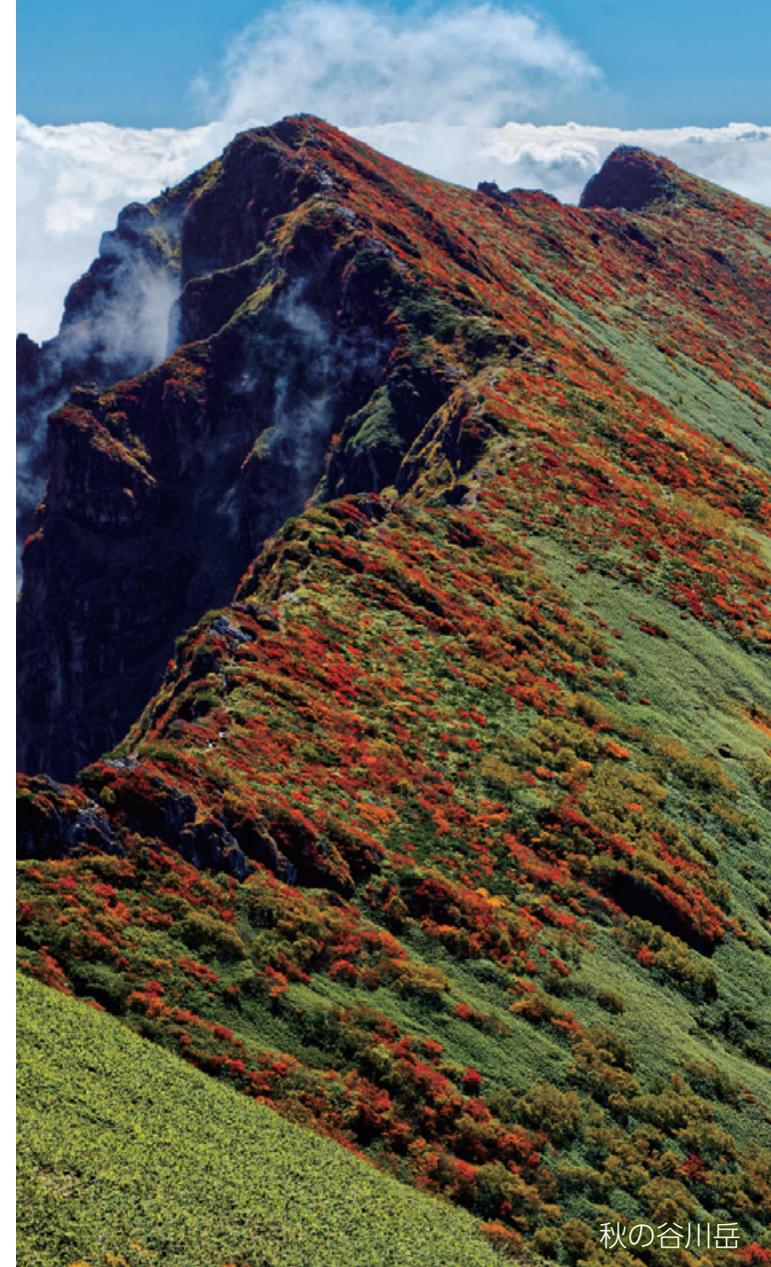
つくば工場増築棟の外観 2023年10月

会社概要 (2023年9月30日現在)

社名	日本精鉱株式会社 NIHON SEIKO CO., LTD.
設立	1935年6月11日
本社所在地	東京都新宿区下宮比町3番2号 電話03-3235-0021(代表)
資本金	10億18百万円
事業内容	各種アンチモン製品等及び 各種金属粉末等の製造・販売
証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
会計監査人	新宿監査法人
従業員数	連結 241名 単体 88名
連結子会社	日本アトマイズ加工株式会社 千葉県野田市 (各種金属粉末等の製造・販売) 日錫精礦(上海)商貿有限公司 中国上海市 (各種アンチモン製品等の販売)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-232-711(フリーダイヤル)
株式に関するお手続きについて(住所変更・買取請求等)	1. 証券会社等の口座をご利用の場合 お取引の証券会社等にお問い合わせください。 2. 証券会社等の口座をご利用でない場合(特別口座) 三菱UFJ信託銀行(電話0120-232-711)までお問い合わせください。
公告方法	電子公告< https://www.nihonseiko.co.jp > (ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。)



第129期 中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日

株主の皆様へ

日本精鉱グループは
グループ力を発揮し、
持続可能な事業の
成長に向け、
チャレンジします



代表取締役社長
植田 憲高

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの第129期上半期(2023年4月1日～2023年9月30日)においては、経済活動の正常化が進み、緩やかに回復の動きが見られました。

一方、世界的な物価上昇の継続に加え、欧米を中心とした金融引き締め、中国経済の先行き懸念など、国内外の先行きは不透明な状況が続いております。また、DXの推進、IoTやAIの活用などから引き続き電子部品のニーズは高まっていますが、巣ごもり需要が一巡すると共に、その反動減で買い替え周期の延び、また物価上昇の影響でスマートフォンやパソコンの需要が減少しました。このような環境下、当社グループは2022年4月よりスタートした「グループ力を発揮し、持続可能な事業の成長に向けて、チャレンジし続けるChallenge for Sustainable Growth」をスローガンとする中期経営計画(2022～2024年度)に基づき、事業活動に取り組んでおります。

こうした取り組みの結果、当期上半期の連結売上高は前年同期比8.4%減収の7,883百万円、営業利益は同65.8%減益の207百万円、経常利益は同62.6%減益の234百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同63.1%減益の161百万円となりました。

当期の中間配当金につきましては、1株当たり40円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2023年12月

連結財務ハイライト

● 売上高

7,883百万円



● 営業利益

207百万円



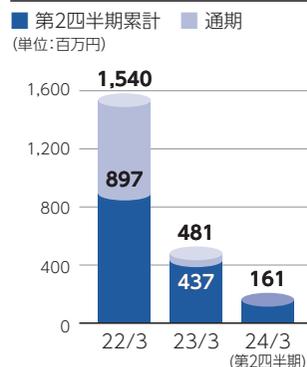
● 経常利益

234百万円



● 親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益

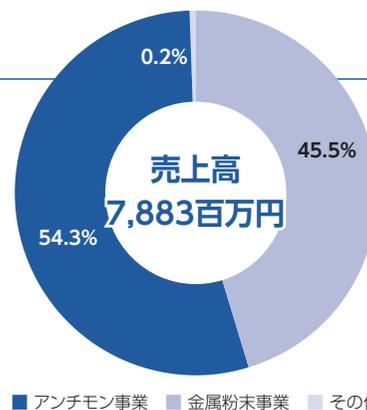
161百万円



セグメント別概況(連結)

● アンチモン事業

プラスチック材料の難燃剤が主用途の三酸化アンチモンは、火災防止のために車や家電、産機、住宅など広範な産業分野で使用されます。自動車分野は緩やかに回復する一方、家電分野などの回復は遅れています。製造業全般の生産部品について、顧客の在庫調整が続き、販売数量が減少しました。売上高は前年同期比15.4%減収の4,279百万円、セグメント利益は、同70.3%減益の136百万円となりました。



● 金属粉末事業

低価格品を中心に、スマホ・パソコン市場の縮小が続いているため、電子部品向け金属粉末の受注が減少しました。粉末冶金向けも、在庫調整の影響が続き低調となりました。売上高は、比較的販売単価の高い鋼種の販売増により、前年同期比1.6%増収の3,588百万円、セグメント利益は操業度低下や電力料金高騰などの影響で、同61.7%減益の50百万円となりました。

連結財務諸表

● 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間 (2023.9.30)	前連結会計年度 (2023.3.31)
資産の部		
流動資産	9,112,770	8,829,084
固定資産	5,599,345	5,124,839
(有形固定資産)	5,035,104	4,561,560
(無形固定資産)	151,985	149,773
(投資その他の資産)	412,255	413,505
資産合計	14,712,115	13,953,923
負債の部		
流動負債	3,744,379	3,467,328
固定負債	1,529,605	1,077,724
負債合計	5,273,985	4,545,052
純資産の部		
株主資本	9,393,834	9,370,743
その他の包括利益累計額	44,295	38,127
純資産合計	9,438,129	9,408,871
負債純資産合計	14,712,115	13,953,923

● 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (2023.4.1～2023.9.30)	前第2四半期連結累計期間 (2022.4.1～2022.9.30)
売上高	7,883,937	8,606,532
売上総利益	758,858	1,159,319
営業利益	207,919	608,801
経常利益	234,224	626,107
税金等調整前四半期純利益	222,464	625,279
四半期純利益	161,505	437,171
親会社株主に帰属する四半期純利益	161,505	437,171